

第3章 リーディングプラン

< 施策体系 >

柱Ⅰ 担い手が将来展望を持って経営できる農業の展開

本県農業の発展に向け、規模拡大や生産コストの低減、多角化・複合化等による経営基盤の強化と、県産農林水産物のブランド力の向上を進めます。

1 経営基盤の強化

- (1) 農地の集積・集約化等による効率的な生産体制の構築
- (2) 新潟米基本戦略に基づく水田所得の最大化
- (3) 新潟県園芸振興基本戦略の着実な実践
- (4) 収益性の高い畜産経営の育成
- (5) 経営の多角化

2 県産農林水産物のブランド力の向上

- (1) 県産農林水産物の付加価値と産地イメージの向上
- (2) 国内外の多様な販路開拓

3 持続可能な農業の実践と安全・安心な農林水産物の提供

4 優良農地の確保・保全

- (1) 経営基盤の強化に資する優良農地の確保
- (2) 用排水機能の安定的な確保

柱Ⅱ 中山間地域農業の維持と農山漁村の多面的機能の発揮

農山漁村の維持に向け、多様な担い手の確保や、豊かな地域資源を活かした所得確保の取組を進めるとともに、地域環境の保全管理活動を推進します。

1 中山間地域等の活性化

2 農山漁村環境の保全管理

3 災害に強い農山漁村づくり

- (1) 森林・農地の保全
- (2) 海岸および海岸林の保全

4 地域資源の有効活用

- (1) グリーン・ツーリズムによる所得拡大
- (2) バイオマス等の有効活用

5 野生鳥獣による農作物等の被害防止

柱Ⅲ 森林資源の利用促進による林業の振興

生産者の所得向上に向け、素材生産の拡大による森林資源の循環利用を進めるとともに、きのこの市場競争力強化を推進します。

1 多様な需要に応えられる素材生産の拡大

2 市場競争力強化に向けたきのこ生産体制の整備

柱Ⅳ 水産業の振興と資源の適切・有効活用

水産業の発展に向け、収益性の高い漁業への転換と漁業者の世代交代を促進するとともに、水産資源の計画的な利用を促す環境整備に取り組みます。

1 経営体質・販売力の強化

2 水産資源の適切・有効利用

柱Ⅴ 農林水産業を担う人材の確保・育成

魅力を感じて就農・就業を目指すものを増やし、産業として必要な人材を継続的に確保するため、教育環境や就業環境の向上、優れた経営者の育成を進めます。

1 人材の確保・育成

2 受入体制構築の推進

<AFF指標一覧と「新たな環境変化等」への対応>

○ 施策体系と脱炭素及びDXに関する取組や、SDGsへの貢献について5つの柱ごとに整理を行いました。

I 担い手が将来展望を持って経営できる農業の展開



体系	指標名	現 状	目 標 (令和6年度)		
I	1-(1)	耕地面積に占める経営体の経営面積の割合 (令和2年度)	40.9% 50%		
	1-(2)	農業産出額等	1,573億円 (令和2年)	1,590億円	
		うち米等主要作物の産出額及び交付金			
	1-(3)	農業産出額等 うち園芸産出額	523億円 (令和2年)	620億円	
		園芸振興 基本戦略	販売額1億円以上産地数の倍増 (令和3年)	101産地	
		園芸栽培面積の増加 (令和元年以降)	+317ha (令和3年)	+1,000ha	
	1-(4)	園芸振興 基本戦略	新たに園芸に取り組む農業者の拡大 (令和元年以降)	947人 (令和3年)	増加させる
		農業産出額等 うち畜産産出額	485億円 (令和2年)	560億円	
1-(5)	多角化に取り組む経営体の平均販売額 (令和2年度)	4,066万円 (令和2年度)	4,200万円		
2-(1)	農業産出額等	2,583億円 (令和2年)	2,770億円		
	2-(2)	県産農林水産物の輸出額 (令和2年度)	36.4億円 (令和2年度)	50億円	
I	3	特別栽培農産物等生産面積 (令和3年度)	26,648ha (現状比15%増加)		
		温室効果ガス削減生産方式取組面積 (令和3年度)	2,831ha (現状比15%増加)		
		GAP認証取得農場数 (令和3年度)	132農場 210農場		
4-(1)	水田汎用化面積 (令和2年度)	79,221ha (令和2年度)	84,100ha		
	水田整備率(参考) (令和2年度)	64.7% (令和2年度)	67%		
	4-(2)	用排水機能の安定的な確保のため、機能保全計画に基づき補修 や更新等の対策に着手した割合 (令和2年)	91% (令和2年)	100%	

※SDGsのアイコンの詳細は13ページをご覧ください。

指標とSDGsとの関わりを示すために、関係の深い目標のアイコンを付けています。

新たな環境変化等への対応	
脱炭素関係、みどりの食料	D X
	・初心者でも安全かつ効率的に取り組めるスマート農業技術の導入
	・水稻の生育状況や作業を「見える化」し、省力化と高い生産性の両立を推進
	・園芸のスマート農業等の先進技術による一層の省力化
・耕畜連携による堆肥の利用促進、地域内自給飼料の生産・利用拡大	・搾乳ロボットや発情発見装置等 I C T の普及定着
・温室効果ガスの削減に向けて、長期中干し、秋耕等の取組の拡大を推進 等	
	・ターン農道等のスマート農業の導入に資する整備の推進や、地下水をコントロールできる暗渠排水の整備を推進
・用排水機場の整備に合わせて、電気使用量を減らす機器導入を推進	・水管理の省力化を図る遠方監視制御機器等の導入を推進

II 中山間地域農業の維持と農山漁村の多面的機能の発揮



体系	指標名	現 状	目 標 (令和6年度)	
II	1	中山間地域等直接支払制度の取組面積	21,979ha (令和2年度)	22,000ha以上
		中山間地域の耕地面積に占める農業法人のシェア	14.5% (令和2年度)	15%
	2	地域共同活動による農地・農業用水等の保全管理面積	124,716ha (令和2年度)	132,000ha
	3-(1)	防災重点農業用ため池の防災対策着手の箇所数	0 (令和2年度)	488
		山地災害危険地区の着手率 (災害リスクの特に高い箇所)	67.7% (令和2年度)	77.5%
		長寿命化対策実施施設数 (治山施設)	218 (令和2年度)	385
	3-(2)	海岸保全施設		
		長寿命化対策整備率 耐震対策整備率	93.9% 61.5% (令和2年度)	95% 70%
		松くい虫被害量	2,999m ³ (令和2年度)	現状以下
	4-(1)	グリーン・ツーリズムツアー等延べ参加者数	3,151人 (令和2年度)	20,000人
4-(2)	バイオマス利用率	78% (令和2年度)	80%	
5	野生鳥獣による農作物被害金額	315百万円 (令和2年度)	減少させる※	

※総合計画策定時の現状値(平成29年度 245百万円)を基準とする。

III 森林資源の利用促進による林業の振興



体系	指標名	現 状	目 標 (令和6年度)	
III	1	素材生産量	19.5万m ³ /年 (令和2年)	25万m ³ /年
	2	県産きのこ生産の全国シェア	19.0% (令和元年)	20.5%

新たな環境変化等への対応	
脱炭素関係、みどりの食料	D X
	・光ファイバや無線基地局等を整備し、農業水利施設のスマート化等を推進
・未利用バイオマスの活用拡大や、再生可能エネルギーの導入	
	・ドローン等 I C T を活用した効率的な捕獲（銃猟）を推進

新たな環境変化等への対応	
脱炭素関係、みどりの食料	D X
<ul style="list-style-type: none"> ・主伐・再造林による循環型林業を進め、若返り化によりCO₂の吸収能力の向上 ・CO₂吸収能力や炭素貯蔵効果等の広報、利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林クラウドシステム、ドローンや航空レーザ等を活用し、効率的な木材生産を推進

IV 水産業の振興と資源の適切・有効活用



体系	指標名	現 状	目 標 (令和6年度)
IV	中核的な漁業経営体1経営体当たりの生産額	1,474万円 (令和2年)	2,100万円
	県産錦鯉輸出額	25.2億円 (令和2年)	30億円
	遊漁券販売金額	8,764万円 (令和2年)	増加させる

V 農林水産業を担う人材の確保・育成



体系	指標名	現 状	目 標 (令和6年度)
V	農林水産業への新たな就業者数	401人 (令和3年)	400人
	新規就農者数	297人	280人
	林業新規就業者数	49人	50人
	漁業新規就業者数	55人	70人
	GAP認証取得農場数	132農場 (令和3年度)	210農場

SDGs（持続可能な開発目標）への対応

持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、開発途上国のみならず先進国も含む国際社会全体の目標として、経済・社会・環境の諸問題を統合的に解決することを目指しています。

【SDGsアイコン一覧】



新たな環境変化等への対応	
脱炭素関係、みどりの食料	D X
<ul style="list-style-type: none"> ・稚魚の育成場となる藻場造成の取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・海底地形の可視化など、経験が浅い新規就業者でも効率的な操業ができるよう、I C T等の新たな技術を活用した操業支援システムを構築

新たな環境変化等への対応	
脱炭素関係、みどりの食料	D X
	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の分野に係る教育カリキュラムの強化